

エリア ウェブ

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2737
 FAX 0553-20-2733

◎ 回覧・配布をお願いします。増し刷り配布はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。
<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ ご意見・ご感想はこちらまで Email : saegusa-aszn@pref.yamanashi.lg.jp

子育てに『父親力』を

夏休み中、ふだんよりは子どもと一緒に過ごす時間が多かったお父さん、今こそ子育てに積極的に加わって父親力を発揮するチャンスです。先日、安藤哲也さんの『パパのための子育て講演会 “パパをもっと楽しもう！”』(NPO法人「Happy Space ゆうゆうゆう」主催・7/13)に参加して、父親の子育てについてたくさん考えさせられることがありました。安藤さんのお話の要約を掲載します。

要 約

仕事と称して企業や組織にぶら下がり、家では妻に依存するばかりの生活。子どもの誕生はそんな男性が自立できるチャンスである。

子どもが誕生した時点で、男性は”子どもは自分の世界の一部”という認識を持ち、「あと何年したら子どもと一緒に楽しい時間が過ごせなくなるのか。」と逆算で考えてみたら、子育ては”期間限定のプロジェクト”であることが実感されるだろう。子どもに働きかけた分だけ何か返ってくる、その何かは関わった人でなければわからない。しかも、子どもは成長とともに自立していくから簡単には自分の思い通りにはならない。これほど知的で創造的なプロジェクトは他にはない。父親になった人だけが味わうことができる特権でもある。

母親は自分のお腹を痛めた子であるためか、子どもができた瞬間に母親OSがインストールされて、子どもを何よりも優先する生活に切り替わる。そのOSには、最新で最良の育児法を吸収しようとする自動バックアップ機能が内蔵されている。

これに対して、父親は子どもができた後も、”自分の仕事”、”自分の時間”、”自分の友達”、”自分の実家”、”自分のキャリア充実”・・・といよいよ、なかなか子どもが一番の存在になっていかない。こうした父性と母性との違いから夫と妻との間に価値観のズレが生じる。

父親にとってなかなか子どもが生活の一部になっていかないのは、その父親OSが古いからである。大抵の父親は”あなたパパになるのよ。”といわれたときから、徐々に父親OSがインストールされていく。問題は、そのOSは夫の父親が使っていた父親像をモデルとした20年から30年前のきわめて古いOSであるということであって、WINDOWSに例えるならばver.95に等しい。それには、かつて自分の父親が行っていたとおりの行動様式しかプログラムされておらず、父親と母親の役割を区別し、家族とと

もに過ごす時間を”家族サービス”と公言し、さらには、子どもの前で母親(妻)に対して高圧的な態度で接する父親(夫)であることを当然とするような代物である。これではしばしばフリーズするし、夫婦の意識のズレは危険水位を生み出しさえする。

今、求められているのは最新版の父親OSである。出産と授乳以外父親は母親と平等に育児分担できることを前提とし、しかも、父親育児はオムツ交換、食事、遊び、読み聞かせ、寝かしつけ、熱を出したときなどのケア・・・、とにかく回数というか、育児に携わる時間をいかにして多く取るかという行動認識を持ったOSである。子どもと一緒に過ごす時間が多ければ多いほどそこから何かが見えてくる。新たな発見が生まれる。例えば、うんちオムツの交換の際、においや色・形から子どもの体調が読み取れるようになって”パパ育児”はホンモノとなる。(安藤さんは6000枚ものオムツを交換したそうです。)このようにして、子どもの父親への信頼が深まり、父親の子どもに対する愛情が深まっていく。子どもと関わりのない生活の中から信頼感も愛情も生まれることはなく、思春期を迎える頃になって、いざ父親らしいもともな説教をしようとするれば子どもの反発を買うだけとなるだろう。しかし、子どもとの間にゆっくり熟成された信頼と愛情があれば、いつかはわかりあえる日が来るだろうし、幼少時から子育てに関わって子どもをよく理解している父親は、子どもとの間に自然なコミュニケーションの取り方を体得している。説教するだけでは



対立を深めるだけで能がないということが自然とわかる。これこそ最新の父親OSに裏付けられた”父親力”である。”時間と量”を追求する”パパ育児”は夫婦のパートナーシップを育てる。父親が育児を分担することによって、母親は一人の女性として”自分の仕事・時間・友達・実家・キャリア充実”のための時間を持つことができる。母親である妻を一人の人間として尊重する実質的な男女の平等はこのようにして実現される。このような状況から危険水位は生じる

はずはなく、信頼と愛情のあるパートナーシップ（夫婦関係）が生まれるだろう。

最後に、安藤さんは次のように結論づけた。「本当に大切なのは、立派なパパになることではない。子育てを通じて自分を取り戻すこと。会社や仕事に縛られることなく、自らの考えによって自由に行動できる自立した男性になること。子育ては、一人の人間として成長するためのエクササイズだと言いたい。」

<園庭開放> 山梨市立西保保育園、山梨市立岩手保育園を訪問しました。

山梨市立西保保育園では毎週水曜日が園庭開放日です。7月23日（水）、お母さんに連れられて2歳の女兒が来園すると、園児が繰出してお出迎え。新しい友達を歓迎する気持ちが満面に表れ、女兒もうれしそうです。プレイルームで”パイレーツ・オブ・カリビアン”のテーマに合わせてリズム運動をするようすから、もうすっかり周囲の友達にとけ込んだように感じられました。水分補給など一休みしてからプールです。念入りに準備体操をした後、プールで水浴を楽しみました。牧丘町にある西保保育園は、園児14名、保育士3名の小規模な保育園です。小さいながらも地域とのつながりが密接で、近所の方が渡り廊下のペンキ塗装をやって下さったり、農作物の収穫に招いて下さったりしたそうです。お礼の手紙を書いてお渡しすると、涙を浮かべて喜んでくれるという、豊かな情操を育むためにまたとない環境があると園長先生が語ってくれました。



8月5日（火）は、山梨市立岩手保育園を訪問しました。園児43名が、猛暑にめげず元気よくプール遊びをしていました。岩手保育園は地域子育て支援の一環として、年間を通して毎週火曜日午前10時～11時30分に、園庭開放を行っているそうです。訪問日が火曜日だったため、入園していない幼児と保護者が来園し、園児と一緒に水遊びをしていました。



保育園の庭・プール等を、入園していない幼児とその親の遊び場として開放する園庭開放を、年間とおして行っている所は少ないそうです。園庭開放は、保育園に通っていない幼児に同世代の子どもと交流できる場を提供するとともに、保育士が保護者の相談に応じ育児不安の解消につなげる狙いがあるそうです。毎回平均3組の親子が来園し、園児と砂遊びをしたり、母親が保育士から育児のアドバイスを受けているそうです。

「総合型地域スポーツクラブ」の紹介

今回から、3回にわたり峡東地域にある「総合型地域スポーツクラブ」の紹介を行っていきます。第1回目は、笛吹市の・・・

『わいわいスポーツクラブ』

- 代表者 桑原 明 TEL 090-3346-5999
- 活動場所 笛吹市境川町「境川スポーツセンター体育館」
- 活動日 毎月 第3土曜日 午後1:30～3:30
- 活動内容・クラブ紹介

笛吹市境川町の「わいわいスポーツクラブ」は、遊び心でスポーツに親しむことで、健康の維持、体力の向上、友達の輪を広げ地域の活性化を図ることなどを目的に活動しています。就学前の子どもから中学生や高齢者までが参加し、「トランポリン・跳び箱・マット・ドッジボール・大縄跳び・スナッグゴルフ・ティーボール」などをみんなで楽しく行っています。また、スポーツテストやスポーツフェスティバルの実施、各種スポーツ教室の開催も行っています。

今後も一部の子どもたちだけでなく、保護者も含め、気軽に大勢が参加でき、遊び心の中で楽しめるようなスポーツクラブを目指していきます。興味のある方やスポーツを試してみたいけれど・・・と考えていらっしゃる方は、ご連絡いただくか、ぜひ一度体育館に足を運んでみてください。



「やまなし子どもフェスティバル」

8月2日土曜日、第9回やまなし子どもフェスティバルが山梨市民会館で行われ、多数の参加者がありました。妊婦・乳幼児から小学校低学年児童と家族を対象に、家庭・地域社会が連携して、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを推進するための一環として、開催されました。おもちゃのかえっこコーナー・バルーン(風船)アート・演奏会・人形劇・おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼうコーナー・自主育児サークルの作品展示・縁日広場・ベビーマッサージ等数多くの催し物がありました。



助産師・保健師による、生後3～6ヶ月児の保護者へのベビーマッサージの指導では、土曜日ということもあり普段は参加する機会の少ないお父さんも参加していました。

山梨高校の3年生で家庭科「発達と保育」を学習している生徒も、「高校生の赤ちゃんふれあい体験学習」として参加し、赤ちゃんへのベビーマッサージを体験していました。生徒からは「私も今日来たお父さん・お母さんのように、子どもができたらめいっぱい愛情を注いで子育てをしていきたいなと思いました。」との感想がありました。多くのお母さんといろいろな話ができて、楽しく充実した時間を過ごしていました。

「ものづくり」と「ホスピタリティ」

～山梨県立産業技術短期大学校～ 学校紹介 (第二回)

前月号に続いて「山梨県立産業技術短期大学校」を紹介します。

■ホスピタリティ(おもてなしの心)を基本に～観光ビジネス科

山梨県は、富士山をはじめとした豊かな自然や文化・歴史などの観光資源を多数有し、年間4千万人を超える観光客が訪れる観光立県です。

「山梨県立産業技術短期大学校」の観光ビジネス科では、観光に携わる仕事の中でも最もお客様と接する機会の多い「ホテル等の宿泊業」「旅行業」における実践的人材の育成を目的としています。

授業では、「接客サービス実習」「企画宣伝実習」、「情報処理実習」などの基礎をはじめ、1年時の後半からは「ホテルコース」「旅行コース」に分かれ、それぞれ専門的な知識や技能を修得します。また、接客業の実践を学ぶため、どちらのコースも1ヶ月間実際のホテルや旅行会社の現場で働く「企業実習」を取り入れています。さらに「料飲業務実習」「観光業務実習」等、さまざまな特色ある実習をとりいれています。観光ビジネス科では「お客様に接する自分自身の印象が商品」ということを念頭にいれホスピタリティ精神(おもてなしの心)の育成を学校生活を通じて行っています。



「料飲業務実習」

レストランサービス



「観光業務実習」

観光カリスマに学ぶ



「企業実習」

1ヶ月間のホテルマン

■働く方への講座 産業技術短期大学校では、学校の設備を活用し働く方のスキルアップのための短期間の講座を、夜間や学校の春休み等を利用して実施しています。

9月の講座の例 「宅地建物取引主任者講座」「アクセス基礎・応用」「3次元CADによる機械設計の基礎」「ワード応用」 能力開発セミナーについてのお問い合わせは 0553-32-5202 産業技術短期大学校 民間研修課まで

次回は生産・電子・情報の「ものづくり」学科を紹介します。

■産短大へのお問い合わせ 山梨県立産業技術短期大学校 教務学生課

住所 甲州市塩山上於曾1308 (JR塩山駅北口から徒歩7分)

電話 0553(32)5201 ◆9/19(金)から推薦入学検定の受付を開始します。◆

山梨高校

熱い夏

山梨高校の生徒による 学校説明会

7月5日の土曜日、山梨高校の学校説明会が行われました。昨年度から生徒主体で行われている学校説明会ですが、今年度も多くの生徒の協力により作り上げられました。

実演による部活動の紹介、パントマイム・寸劇による学校行事や学校生活の説明、卒業生による大学受験の体験談など、実に盛り沢山の内容で終了しました。



< 部活動の迫力ある実演 >

登山部・体操部 インターハイ出場

6月に行われた山梨県高等学校総合体育大会において、登山部は優勝。体操部は団体2位とともに、3年生で出場した2名がインターハイ個人出場枠を獲得するという素晴らしい結果を残しました。この結果をもとに、登山部・体操部は8月に行われたインターハイへ出場しました。

さらに登山部の3年生は、クライミングの国体の関東ブロック予選において少年・女子の部で3位という成績も残しており、多方面で活躍しています。



< 登山部員、優勝杯・賞状とともに >

放送部 ラジオドキュメント部門 第2位

6月22日（日）に開催された高校放送コンテストの山梨県大会で、山梨高校放送部の生徒が、ラジオドキュメント部門第2位という結果を残しました。この結果により7月23日（水）から25日（金）までの3日間、東京で行われた全国大会へ出場しました。全国大会を終えた感想を聞いてみたところ「自分たちよりもレベルの高い作品を見聞きすることができ、今後の成長につながりました。この場に立つために協力をしてくださった多くの先生に心から感謝しています。」ということでした。

吹奏楽コンクール 山梨県大会 金賞受賞

8月1日（金）に開催された高等学校吹奏楽コンクールの山梨県大会B部門において、本校の吹奏楽部が見事金賞を受賞しました。吹奏楽部の生徒は、休日も練習に練習を重ね本番に臨みました。金賞を勝ち取ったときの生徒の笑顔が、これまでの努力を何よりも物語っていました。この山梨県大会の結果により、9月14日（日）に行われる西関東吹奏楽コンクールへ山梨県代表として出場します。昨年度、西関東においても創立以来初の優勝を勝ち得た部員たちは、この大舞台で連覇を狙います。